

## 自衛隊のPKOに対する取り組み

にも、国際経験が豊富で語学力に優れた陸上自衛官と事務官の方々が出向されTPPを担当してくださっている。また、訓練現場でも、内閣府国際平和協力本部事務局の方々が、連絡要員としてプロジェクトの円滑な運営に尽力してくださっている。

**吉田** その時の自衛隊への期待や評価はどのような事ですか？

**伊東** 自衛隊の高い練度、規律、また決められた任務を全うする力、信頼感などは国連でも有名で、TPPの立ち上げ当初より非常に高い期待をしていた。そしてプロジェクトが始まってその高い期待通りの活躍をされていた。期待以上だったのは、想定外の出来事・課題にも柔軟に、熱意を持ってあたり問題解決してくれたこと。実例を一つ挙げたい。重機の操作はちょっとしたミスでも大怪我をする危険をはらんでいるため、最低限の条件として、訓練生には自動車運転免許を保持していることを求めた。しかし、免許を持っていなかったり、持っているも運転が怪しい訓練生が複数紛れ込んでいた。多くの国の教官は、そのような訓練生は国に送り帰していたかもしれないが、自衛隊員の教官の方々は、ご自身の休みを返上し、本来の訓練が行われない週末に運転のできない訓練生たちに運転技術を教え、見事、重機操作訓練に全員を合格させた。これは他に例を見ない日本らしい非常に丁寧で真摯な対応であり、国連PKO幹部なども高く評価していた。

**吉田** 国連から見た防衛省・自衛隊(日本)のPKOに対する取り組みや課題点などについて教えて下さい。

**伊東** 私が長くPKOの文民要員として勤務した東ティモールでは、自衛隊の施設部隊が国連PKO部隊として約2年間に亘り、道路等の修復を行い、それらは「ジャパニーズ・ロード」「ジャパニーズ・ブリッジ」と呼ばれ、感謝されていた。私が国連職員として東ティモールに赴任したのは、すでに自衛隊の施設部隊が撤収したあとであったが、ティモールの人達は、私にすら日本人ということで感謝の気持ちを伝えてきた。車を駐車するにしても、自衛隊は線を引いたようにピタッと駐車する、きっちりしていてびっくりしたというのは、何人ものティモール人から聞いた。また日本は、25年以上に亘り1万人以上の要員を国連PKOに派遣しているが、一度も不祥事を起こさず、日本の要員は規律の高いことで有名である。自衛隊の規律の高さや技術力の高さは、ハイチや南スーダンのPKOミッションでも大変評価されていた。

日本のPKOへの貢献というと、自衛隊の貢献に着目しがちだが、日本はPKO強化に政治・政策レベルでも高い貢献をしている。2014年から始まった国連PKOサミット・閣僚級会合プロセスでは、日本は共同議長として常に議論をリードしてきた。一国連職員としては、主権国家の課題を指摘する立場にないが、日本のPKO貢献に関してお願いを述べさせていただけるとすれば、日本の得意分野としてこれまでも実績の高い施設部隊に加え、輸送(陸上、航空戦略輸送、ヘリコプター)や医療、情報収集・インテリジェンスなどの分野における人的・物的貢献をご検討いただきたい。

**吉田** 三角パートナーシッププロジェクトの評価はいかがですか？

**伊東** 昨年、151カ国が支持を表明した「PKOのための行動(A4P)」に関する共同コミットメント宣言や、今年3月のPKOに関する閣僚級会合における国連事務総長演説でも自衛隊が教官として参加している三角パートナーシップの訓練が「革新的アプローチ」として評価された。また、5月にインドネシア国外務大臣の議長の下に行われたPKOの能力構築に関する安保理会合でも、多くの国より三角パートナーシップを高く評価する旨の発言がなされている。

要員派遣国・支援国・国連の三者協同のPKO訓練事業である三角パートナーシップの枠組みの下、これまでに、アフリカやアジアで、330人に施設訓練、2,000人以上に通信訓練を行い、今年、医療訓練も開始する。三角パートナーシップの最大の魅力は、施設、通信、医療に限らず、様々な分野に応用が可能なことだ。自衛官の教官としての派遣や83億円の財政貢献いただいた日本をはじめ、スイス、ブラジル、イスラエルといった現在の支援国に感謝しつつ、国連としては、さらに支援国を増やし、

PKOをあらゆる分野で強化し、究極的には、PKOが不要のない平和な世界を実現したい。

## 伊東 孝一氏

(いとう たかかず)



1998年、東京外国語大学外国語学部朝鮮語学科卒業  
2002年、ロングアイランド大学大学院社会学修士  
1998年、富士銀行勤務  
1999年、国連日本政府代表部勤務  
2003年、国連開発計画コンゴ事務所にて治安部門改革担当  
2004年、国連政治局で北東アジア担当政務官  
2006年、国連東ティモール統合ミッション政務官  
2008年、東ティモール担当国連事務総長特別代表付特別補佐官  
2012年、国連フィールド支援担当事務次長付特別補佐官  
2018年、国連フィールド支援局、上席企画官  
2019年、現職。

# 日本の平和、そして世界の平和を守るためのご尽力・ご活躍有難うございます

## 国連サイドから見た防衛省・自衛隊のPKOに対する取り組み

自衛隊の本来任務になった一番新しい任務は、国際平和協力活動である。国際平和協力活動は、それまで我が国の防衛や公共の秩序の維持という本来任務の付随的な業務とされてきたが、平成19年に本来任務に位置付けられた。その中に国連平和維持活動(国連PKO)がある。更に国連事務局のPKO訓練に自衛隊員や自衛官の講師なども派遣し、国連を中心とした国際社会の平和と安定を求める努力に対し、資金面だけでなく人的面でも協力している。

平成4年6月19日、国際連合の国連平和維持活動等に協力するための国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律(国際平和協法力・PKO協法力)は作られた。そして

**吉田** 国連での現在のお仕事は？

**伊東** 国連オペレーション支援担当事務次長(局長)室で、平和活動局と緊密に連携を取りながらPKOを強化するために、PKOのための行動(A4P: Action for Peacekeeping)、PKOサミット・閣僚級会合プロセス、国連三角パートナーシッププロジェクト(UN TPP: Triangular Partnership Project)日本では、国連PKO支援部隊早期展開プロジェクトやRDECなどとしても知られる、やアフリカ連合(AU: African Union)の能力構築などの事務局のPKOパートナーシップ事業を担当している。

**吉田** 今までの国連でのお仕事は？

**伊東** これまで15年に亘り、ソコボ・東ティモールなどの現場と国連本部のあるニューヨークを行き来しながら、文民として国際の平和と安全に関わる仕事をしてきた。特に東ティモールで勤務した5年間は、思い入れが強い。2006年に、国軍と国家警察が衝突し、15万人もの市民が国内避難民化するような危機的状況下、国連東ティモール統合ミッション(UNMIT: United Nations Integrated Mission in Timor-Leste)の立ち上げから、東ティモールが治安を回復し、二度の大統領・議会選挙を行い、2012年にミッションが撤収した年まで、事務総長特別代表の特別補佐官や政務官として平和構築プロセスに携わった。その時に出会い、一緒に仕事をした多くのティモール人や他の外国人、日本人の方々との縁は、大切な財産である。

**吉田** 東ティモールからは、2010年に防衛大学校創設以来初の女性留学生として入学し、卒業後は陸軍少尉として国軍で活躍されています。東ティモールや国連は女性の活躍が目まざましいですが、日本ではあまり見えない光景などがあつたら聞かせて下さい。

**伊東** 東ティモールや国連では多くの女性が要職に就き活躍している。ティモールの国民議会においては、約4割の議員が女性。国連事務局の幹部職員(各局の局長や事務総長特別代表などを務める事務次長レベル)の5割以上も女性。東ティモールでも国連でも、女性が変わる推進する一大パワーとなっている。日本でも多くの女性が男性と共に指導的立場で活躍できる環境が整えば、女性の知性とパワーで、日本がより魅力的で活気ある社会に変わるのはと思う。

**吉田** 今回の日本出張の目的は何でしょう？

**伊東** 三角パートナーシッププロジェクト(TPP)関連の協議を防衛省・外務省・内閣府国際平和協力本部事務局などで行うこと。また、TPPは大勢の日本の方々のご支援で実施出来ているので、防衛省・自衛隊関係者とそのご家族、PKO実務者・研究者、国連に関心のあるの方々に対しての活動報告や広報、そしてお礼を申し上げることだ。

**吉田** 前回日本に戻られたのはいつですか？

また、日本に戻ってきたと思う時はどんな時でしたか？

**伊東** 去年11月。国連本部専門職の職員は2年に一度自国に戻る制度を利用して、一時帰国休暇を取る事ができる。温泉に入ると「戻ってきたな」と感じる。外国のお風呂は湯船があっても肩まで浸かれない場合が多い。今回は、残念ながら温泉には行けそうもないが…。

**吉田** 最近も重機操縦訓練などのため陸自隊員が派遣されましたが、今回の派遣に関わらず、派遣隊員やそのご家族及び関係者へ何か一言お願いします。

**伊東** 日本の平和、そして世界の平和のためのご尽力、ご活躍ありがとうございます」と、一国連職員として、お礼を申し上げたい。



ドーザー操作教育(中山3曹)

**吉田** 日本から遠く離れたケニアやベトナムでの訓練指導がなぜ日本の平和を守ることに繋がるのですか？

**伊東** 実は密接に関係している。今日では、世界の国と国、人と人の距離が空間的にも時間的にも短くなっている。これは良いことばかりではない。ヒト・モノ・カネ・情報が、簡単にそして安価に流通するようになったことにより、経済格差の拡大、SNSなどを通じた原理主義的な思想の拡散、小型武器や自爆テロなどに利用される爆破物の入手が容易になっている。ある国での紛争が、遠く離れた国や地域にその影響を及ぼすことも多くなってきた。例えばシリアの内戦。大勢の難民が欧州などに流出し、一部の国での人権問題、治安問題へと繋がった。また、多くの難民を受け入れた国の中には、反対する一部の国民による移民・外国人に対する差別・排斥や極右勢力の急激な台頭といった問題を抱えてしまった国もある。元々統治力の弱い紛争を経験した国等が破綻国家化してしまうと、犯罪組織の温床となったり、国際テロ組織の拠点として利用され、世界中の多くの国の平和を脅かすことになってしまう。そのため、自衛隊が、アフリカ・アジア諸国軍隊の工兵に対して世界一きめ細やかな重機操作・施設訓練を行い、これらの工兵が国連PKO要員として、マリ・中央アフリカ・ソマリア・南スーダンといった国での平和構築にあたることは、非常に重要なこと。自衛官の訓練活動が、世界の平和、日本の平和を守ることになる。

すことも多くなってきた。例えばシリアの内戦。大勢の難民が欧州などに流出し、一部の国での人権問題、治安問題へと繋がった。また、多くの難民を受け入れた国の中には、反対する一部の国民による移民・外国人に対する差別・排斥や極右勢力の急激な台頭といった問題を抱えてしまった国もある。元々統治力の弱い紛争を経験した国等が破綻国家化してしまうと、犯罪組織の温床となったり、国際テロ組織の拠点として利用され、世界中の多くの国の平和を脅かすことになってしまう。そのため、自衛隊が、アフリカ・アジア諸国軍隊の工兵に対して世界一きめ細やかな重機操作・施設訓練を行い、これらの工兵が国連PKO要員として、マリ・中央アフリカ・ソマリア・南スーダンといった国での平和構築にあたることは、非常に重要なこと。自衛官の訓練活動が、世界の平和、日本の平和を守ることになる。

**吉田** 自衛官の訓練活動が、日本の平和のみならず世界の平和を守る事になっているのですね？

**伊東** 日本を守りたいと思って自衛隊に入隊した方々が、遠い国で他国の軍人をPKOの現場で活躍出来るよう訓練にあたる。自衛隊員に訓練されたPKO要員が、荒廃した国々の復興を支援し、紛争地域の人々に夢や希望を与える。それが世界平和や日本の国防にも繋がり、世界中の多くの人々に感謝されているということ。大切な人を海外に送り出すご家族の方々にお伝えしたい。

**吉田** 2014年にTPP(三角パートナーシッププロジェクト)を主導して企画されましたが、その時はどんなことをされたのですか？

**伊東** 「オールジャパン」と言える位、防衛省、自衛隊、外務省の方々に関わって頂き、強力なご支援を賜り、一緒に作り上げたという感覚があった。学識経験者の方々のご支援もあった。TPPの企画の立案、その後の立ち上げはとても楽しい思い出。2014年当時のPKO担当国連幹部らで共有されていた、「高い技術とリソースのある国々に、発展途上国が主体の要員派遣国の兵員訓練を支援してもらおう」というのが本プロジェクトの構想。これを当時のアミラー・ハク国連事務次長がメディアで語ったところ、防衛省より国連日本政府代表部に出向中だった森広芳光氏(防衛省の事務官では初の国連職員(出向)現防衛政策局日米防衛協力課先任部員)が興味を持たれ、私に企画化を提案して頂いた。すぐに企画書を作成し、いくつかの国に出してみたところ、日本政府の支援が決定し、2014年のPKOサミットにおいて、安倍総理大臣に支援表明をして頂いた。当時陸上自衛隊から国連代表部に出向中だった小倉好文氏(現陸幕防衛協力班長1陸佐)からは、日本が国連PKO軍事マニュアル策定の議長を務めていた経験から、本プロジェクトに対する技術的な観点やプログラム構成等に関し、陸上自衛隊と連携して頂いた。国連日本政府代表部、外務省、防衛省、自衛隊の多くの方々、本プロジェクトを支援すべく動いてくださったお陰で、TPPが現実のものとなった。現在も、ニューヨークの国連事務局、そして国連日本政府代表部



整備調整支援(PKO事務局飯島研究員)

PKO 活動一覧	派遣期間	延べ人数	主な業務内容	平成30年防衛白書より引用	
国連カンボジア暫定機構(UNTAC)	停戦監視要員	H4.9~H5.9	16人	●集めた武器の保管状況の監視および停戦遵守状況の監視 ●国境における停戦遵守状況の監視	
	施設部隊	H4.9~H5.9	1,200人	●道路、橋などの修理 ●UNTAC構成部門などに対する給油・給水 ●UNTAC構成部門などの要員に対する給食、宿泊または作業のための施設の提供、医療	
国連モザンビーク活動(ONUMOZ) (34次要員まで実施)	司令部要員	H5.5~H7.1	10人	●ONUMOZ司令部における中長期的な業務計画の立案ならびに輸送の業務に関する企画及び調整	
	輸送調整部隊	H5.5~H7.1	144人	●輸送手段の割当て、通関の補助その他輸送に関する技術的調整	
国連兵力引き離し監視隊(UNDOF) (34次要員まで実施)	司令部要員	H8.2~H25.1	38人	●UNDOF司令部におけるUNDOFの活動に関する広報・予算の作成ならびに輸送・整備などの業務に関する企画および調整	
	輸送部隊	H8.2~H25.1	1,463人	●食料品などの輸送 ●補給品倉庫における物資の保管、道路などの補修、重機材などの整備、消防、除雪	
国連東ティモール暫定行政機構(UNTAET)・02.5.20からは国連東ティモール支援団(UNMISSET) (4次要員まで実施)	司令部要員	H14.2~H16.6	17人	●軍事部門司令部における施設業務の企画調整および兵站業務の調整など	
	施設部隊	H14.3~H16.6	2,287人	●PKO活動に必要な道路、橋などの維持・補修など ●ディリなど所在の他国部隊および現地住民が使用する給水所の維持 ●民生支援業務	
国連ネパール政治ミッション(UNMIN)	軍事監視要員	H19.3~H23.1	24人	●マオイズト、ネパール国軍の武器・兵士の管理の監視など	
国連スーダンミッション(UNMIS)	司令部要員	H20.10~H23.9	12人	●軍事部門の兵站全般に関するUNMIS部内NO調整 ●データベースの管理	
国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH) (7次要員及び撤収支援要員まで実施)	司令部要員	H22.2~H25.1	12人	●MINUSTAH司令部に置いて、施設活動の優先順位を決定するなどの施設関係業務の企画調整、軍事部門の物品の調達・輸送などの兵站全般に関する企画調整	
	施設部隊	H22.2~H25.1	2,184人	●瓦礫除去、道路補修、軽易な施設建設など	
国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)	軍事連絡要員	H22.9~H24.9	8人	●東ティモール内各地の治安状況についての情報収集	
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) (11次要員及び撤収支援要員まで実施)	司令部要員	H23.11~	31人	●軍事部門の兵站全般の需要に関するUNMISS部内の調整 ●データベースの管理 ●施設業務に関する企画および調整 ●航空機の運航支援に関する企画および調整	
	派遣施設隊	H24.1~H29.5	3,912人	●道路などのインフラ整備など【5次要員以降下記業務追加】 ●施設部隊が行う活動にかかるUNMISSなどとの協議および調整	
	現地支援調整所	H24.1~H25.12		●後方補給業務などに関する調整 ●施設部隊が行う活動にかかるUNMISSなどとの協議および調整 ●後方補給業務などに関する調整	